第39回日本都市社会学会大会
自由報告部会II

2021.9.11

三大都市圏の社会空間構造

(1)人口、家族、住宅に関する分析

◯浅川達人（早稲田大学）
平原幸輝（早稲田大学大学院）
妻木進吾（龍谷大学）

第１報告～第３報告まで

三大都市圏の社会空間構造

(1)人口、家族、住宅に関する分析：浅川（10分）

(2)所得階層に関する分析：平原（20分）

(3)労働、職業、産業：妻木（20分）

(4)総括：浅川（10分）

目的

- 東京大都市圏、中京大都市圏、京阪神大都市圏という日本の三大都市圏の社会空間構造を、社会地図を用いて描き出し、それぞれの都市圏の特徴を明らかにすること
- 質問紙調査との接合のための準備を行う
  - 本研究は、科研費（基盤研究A）「三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する計量的研究」（研究代表者：橋本健二）の一部であり、本年度中に大規模なWEB調査を計画している
  - 接合のためには、小地域統計データおよび市区町村を表章単位とする統計データを用いる予定である

方法

- データ
  - 2015年国勢調査、標準地域メッシュ（3次メッシュ）
- 対象範囲
  - 東京大都市圏：東京駅から半径60km圏内
  - 中京大都市圏：名古屋駅から半径40km圏内
  - 京阪神大都市圏：大阪駅から半径50km圏内
- 分析方法
  - 社会地図：人口、家族、住宅
  - クラスター分析（K-means法）